

7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【東京外国語大学】



〈東京外国語大学留学促進キャラクター:トビタくん〉

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 本学からの派遣留学生増への取組

- ・新たに11の大学と国際学術交流協定(うち、学生交流協定の締結は4大学)を締結したほか、包括協定締結済みの4大学と、新たに学生交流協定を締結し、学生の留学機会の拡大を図った。
- ・短期留学については、夏学期に44カ国・地域、148プログラムを、冬学期に35カ国・地域、61プログラムを開講した。そのうち、夏学期は、36カ国・地域、75プログラム、冬学期は、30カ国・地域、47プログラムに学生が参加し、参加人数は、夏学期が347名、冬学期が284名で、合計は631名であった。
- ・外国語運用能力向上のための短期海外留学プログラム(ウクライナ語、イタリア語、英語)に3名の本学大学院生が参加し、交換留学プログラムに、4名の本学大学院生が参加した。それぞれの学生にとって、研究遂行力に直結する語学運用能力を向上させ、現地の文化や社会を身をもって経験することにより、研究フィールドに対する知見を深める機会を提供した。

○ 留学生受入増の取組

- ・短期受入(ショートステイサマー/ウィンタープログラム)では、夏冬学期合計で、12カ国・地域より54名の参加があり、本学学部生による日本語授業サポート(夏学期29名、冬学期12名、計41名)を通じ、活発に学生交流を行った。
- ・受入留学生の増加と、Joint Education Programにおけるタンデム学習の定着により、受入学生・本学学生双方の異文化理解・語学能力の向上が促進された。また、短期受入におけるホームビジットや企業訪問の増加により、日本文化・社会への理解力を涵養した。

○ 言語関係の取組

- ・多言語라운ジの広報を強化した結果、春学期は延べ676名(スピーキングセッション409名、CEFR-Jセッション267名)、秋学期は延べ552名(スピーキングセッション292名、CEFR-Jセッション260名)の参加がみられ、学生の語学力向上につながっている。
- ・大学院キャリアアップ・プログラムの一環で、「言語教育基礎1・2」の授業が開講され、CEFRを活用した外国語教育に習熟した外国語教育の専門家人材育成を進めている。受講者が多言語라운ジでインターンシップを行ったり、多言語라운ジの運営に携わることで、学内の多言語教育環境の充実に貢献している。



〈ショートステイサマープログラム開講式〉

ガバナンス改革関連

○ 教職員の多様化・高度化への取組

- ・外国籍の教員を8名、外国の大学で学位を取得した日本人教員2名を新たに採用したことで、授業形態の多様化や世界各地の大学との連携が実現し、学生に提供する教育研究の多様化が実現した。
- ・多岐にわたるプログラムで段階別に設計された事務職員国際化研修により、職員の英語やその他外国語の実践的な運用能力及び国際業務対応能力が向上し、外国籍の教員の受け入れ体制の整備や、国際学術交流協定締結が順調に進み、教育研究環境が充実した。
- ・事務職員の語学力を測る指標として、従来のTOEIC L&Rに加え、新たにTOEIC S&W受験の機会を提供したことで、英語力の向上を4技能で測ることが可能となり、学習意欲とモチベーションの向上にもつながった。

教育改革関連

○ 「日本の発信力強化」への対応

- ・国際的な視野から日本を総合的に学び、世界へ向けて日本を発信することを目指す、「国際日本学部」を開設した。初年度である令和元年度には、日本人学生・留学生あわせて82名が入学し、日英2言語を用い、多角的に日本を伝えなおす学びが始まっている。



〈国際日本学部「多文化コラボレーション授業」でのミニ番組の制作〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ Global Japan Officeの展開

- ・日本語教育・日本紹介の拠点として設置しているGlobal Japan Office (GJO)に加え、学生のボランティア活動・交流の拠点となるGlobal Japan Desk (GJD)を新たに設置し、日本に関する教育の世界的な展開を推進した。
- ・プロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)にGJD第1号を開設した。また、タシュケント国立東洋学大学(ウズベキスタン)ともGJD開設で合意した。
- ・設置済みの17のGJOで引き続き日本語教育・日本紹介活動などを実施した。「日本語会話クラブ(ライデンGJO)」「ペラペラカフェ(ベオグラードGJO)」「橋クラブ(リトアニアGJO)」など、各拠点のコーディネーターが中心となって組織してきた学生主体のクラブ活動が活発に実施され、日本語・日本文化を学ぶ場としてだけでなく、留学中の日本人学生と現地学生の交流の場としても機能している。



〈ルワンダGJD開設式〉

○ Joint Education Program実施のための取組

- ・海外協定校と合同で実施するJoint Education Programを32件実施した。
- ・実施形態別では、ショートビジット型が2件、遠隔講義型が10件、スタディツアー型が4件、タンデム学習型が2件、教育実習型が1件、教員招聘型が1件及び大学院学生研究指導型12件であり、引き続き多様なプログラム提供を実施した。



■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

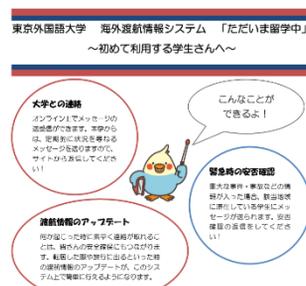
○ 英語以外の外国語のCEFR等の国際基準に基づいた言語能力指標の設定

〈グアナフアトGJO日本語吹き替え研究会〉

- ・本学の専攻言語28言語に関して、CEFR-Jによる統一基準を共有し、教育用言語材料の構築を進め、CEFR-Jレベル別語彙表に関してはA1レベルが25言語分、A2レベルは23言語分の整備をほぼ完了した。また、B1・B2レベルの整備に新たに着手し、それぞれ2言語分の整備を進めた。
- ・CEFR-Jのレベル別CAN-DOリストの内容に準じたフレーズ・リストの整備も並行して行っており、今までにPre-A1～A1.3レベルが19言語、A2.1～B1.2レベルは14言語分がほぼ完成した。
- ・評価の可視化方法の具体的な試みとして全学生の学期末の言語能力達成度について、通常の言語科目の授業成績評価に加えて、CEFR-J指標に換算したレベル評価を試みた。各言語専攻の評価規準が昨年度よりも格段に均一化され、各言語で期末試験からCEFR-J指標に換算する手法などが独自に工夫され効率化も進んだ。
- ・全学生の言語能力達成度についてCEFR-J評価をとりまとめ、「多言語グローバル人材ポートフォリオ(通称TUFFS Record, たふれこ)」に表示した。さらに卒業時の言語力を「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント」の一部としてCEFR-J指標で掲載し、卒業生に配布した。
- ・構築している言語教育資源の利用方法の1つとして、e-learning 環境の整備を引き続き進めた。CEFR-J x 28単語学習アプリ(iOS/Android)を端末で利用できるように学内の学生・教員に公開しており、現在、23言語でA2レベルまでの語彙を英語・日本語をハブ言語として学べるような設計になっている。

○ TUFFS留学支援共同利用センターの取組

- ・TUFFS留学支援共同利用センターでは、他大学の学生から15件の留学相談を受け、また、他大学の教職員から留学生の安全管理に関する問い合わせなどに対応したほか、学生の留学の実態を分析し留学白書として取りまとめた。
- ・教員との連携や、本学独自の海外渡航情報システム「ただいま海外留学中」、海外危機管理サービス「OSSMA」の利用により、海外派遣学生の動向を、常時把握することにより、新型コロナウイルス流行下においても、迅速に学生と連絡を取り合い、的確な指示を出すことができた。



〈海外渡航情報システム「ただいま海外留学中」〉

留学生情報の確認・編集

大学との連絡



■ 自由記述欄

○ 海外危機管理シミュレーション訓練の実施

- ・役員・部局長や本学において海外派遣・学生対応・広報などの実務にあたる教職員を対象に、海外危機管理シミュレーション訓練を実施した。学内危機管理体制を検証するとともに、組織的な危機管理対応能力の更なる向上を図った。



〈海外危機管理シミュレーション訓練の様子〉

○ コロナ禍における国際交流の取組

- ・留学による相互交流については、実際の相互訪問が不可能となった状況においても、オンライン授業を用いた交流によって補完することにより、リスクに備えつつ、状況の推移をみながら、相互訪問の再開を待っている。
- ・オンライン教育の充実に向け、引き続き大学として取り組んでいく。